



浦安D-Rocks

ラグビーチームにおける
カーボンオフセットの取り組み



2025.12.13

開幕戦

ゼットエーオリブリスタジアム

vs 三菱重工相模原ダイナボアーズ

ホームグラウンド（浦安Dパーク） 千葉県浦安市高洲



なぜスポーツクラブが社会課題に向き合うのか？

気候変動により、すでにこれまでのような活動が難しくなってきている事実があります。

熱中症の死亡者数は35年前に比べて**約20倍**に 特に屋外スポーツは中止試合が**約4.7倍**に

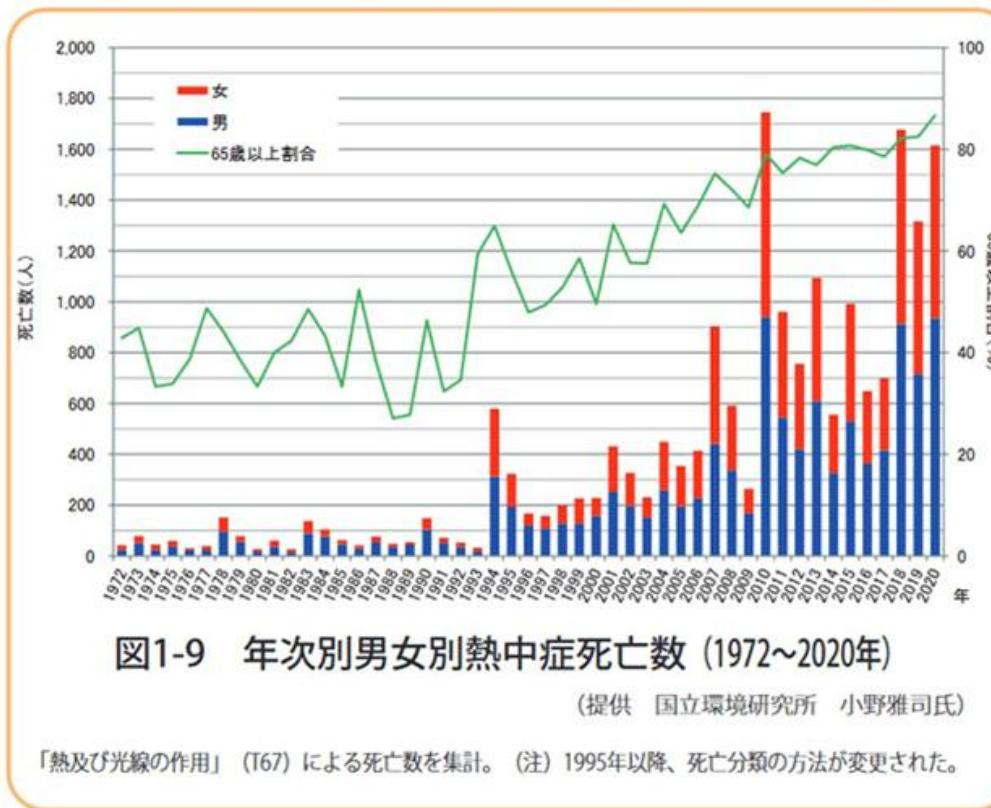
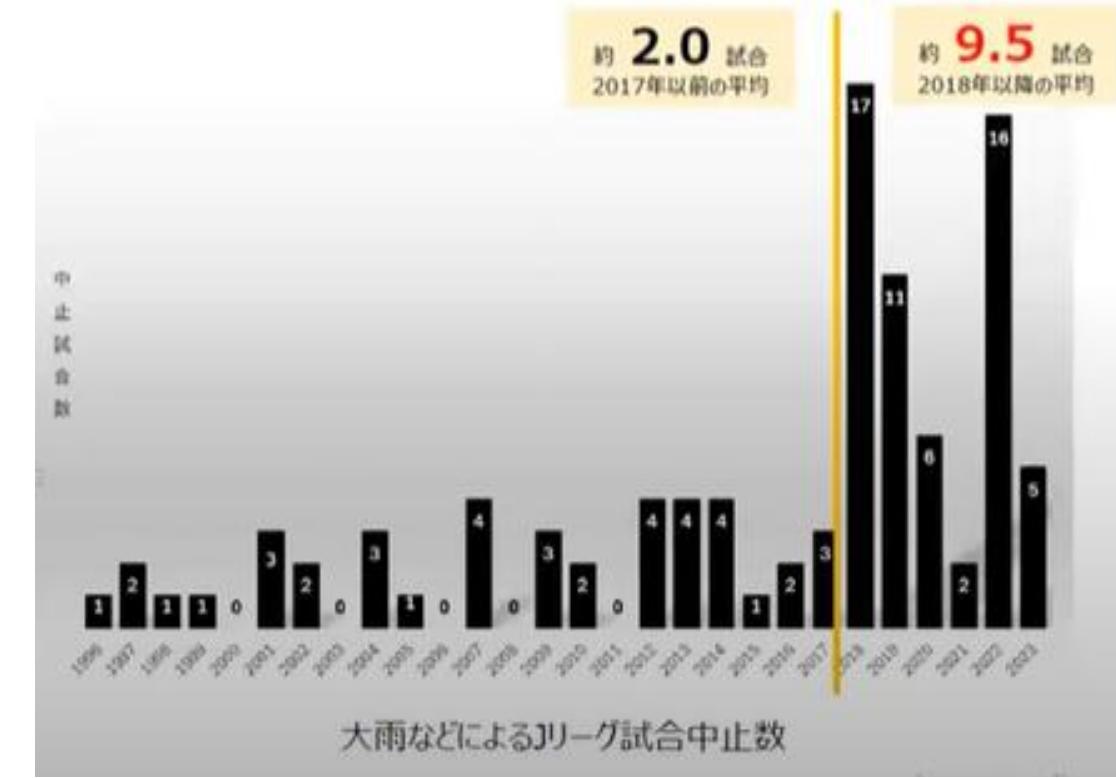


図1-9 年次別男女別熱中症死亡数 (1972~2020年)

(提供 国立環境研究所 小野雅司氏)

「熱及び光線の作用」(T67)による死亡数を集計。(注)1995年以降、死亡分類の方法が変更された。



大雨などによるJリーグ試合中止数



なぜスポーツクラブが社会課題に向き合うのか？

【 競技スポーツとして 】

- ・夏場の屋外スポーツは危険？
- ・練習機会、試合の機会の減少？
- ・気候に合わせた練習時間、場所、チーム戦術、出場選手決定？

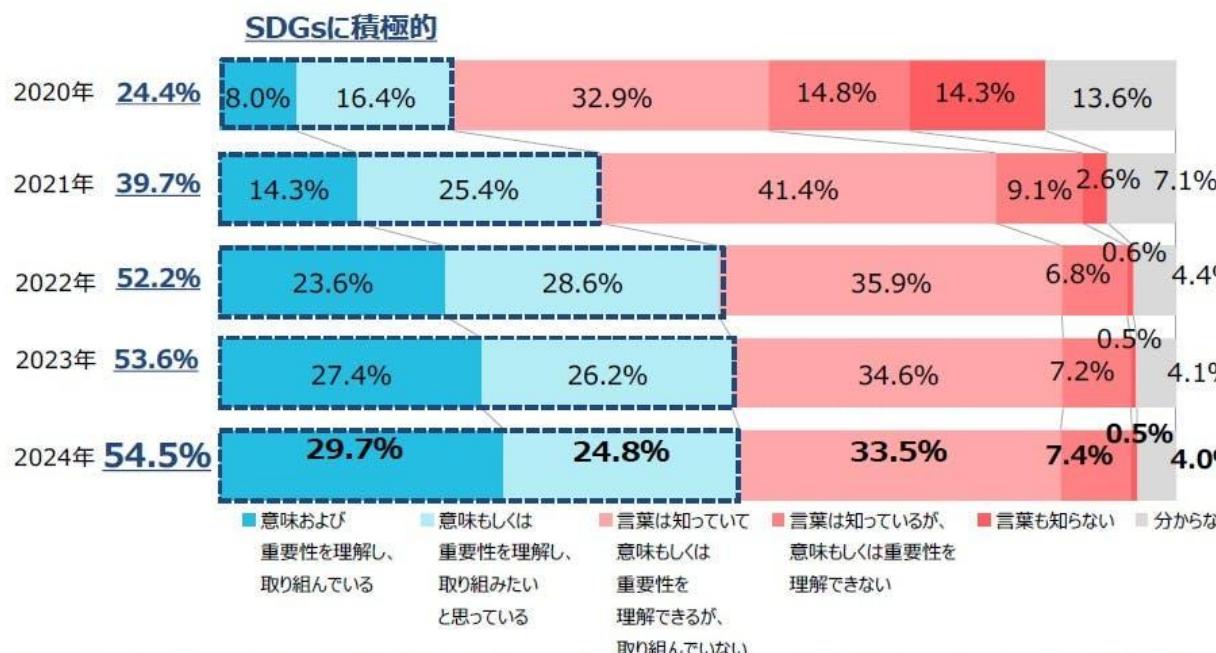
【 スポーツビジネスとして 】

- ・夏場の興行、企画イベントの開催減少
- ・ラグビー関係人口の減少？
- ・気候に左右される収益構造？
- ・リーグ参入要件としての「 サステナ指数 」の導入の可能性

なぜスポーツクラブが社会課題に向き合うのか？

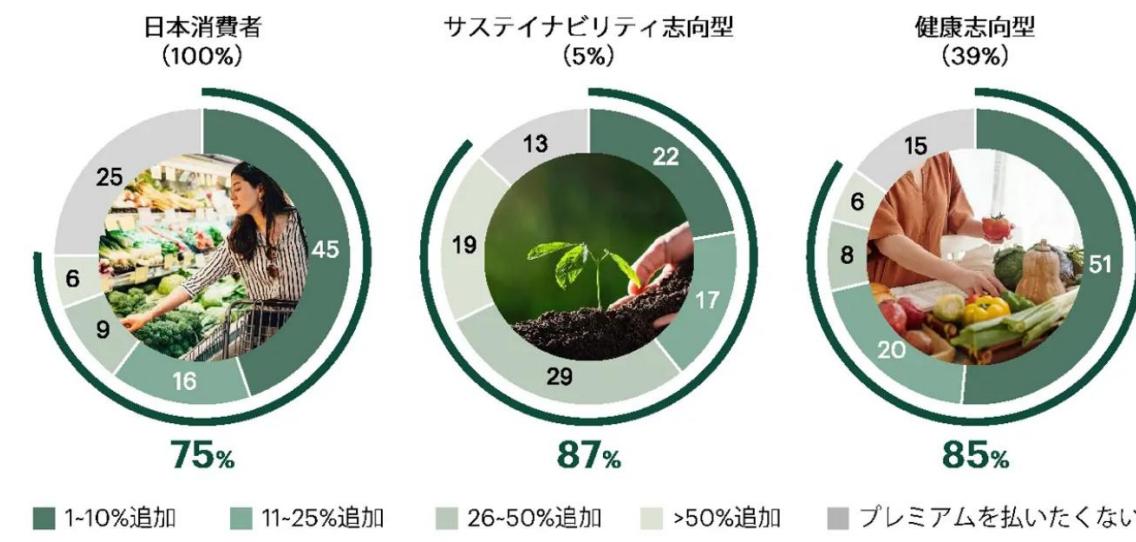
一方で、私たちの顧客である企業や個人消費者の社会課題に対する関心の高まりはチャンスでもある。

SDGsに積極的な企業は、「過去最高」の54.5%



出所：帝国データバンク「SDGsに関する企業の意識調査（2024年）」

サステナへの支払いに前向きな消費者は75%



出所: markezine日本の消費者の約8割がサステイナブル製品への購買意欲が高いし実購買へは至らず【ベイン調査】

なぜスポーツクラブが社会課題に向き合うのか？

サステナビリティをスポーツクラブのブランディングの最前線におくことで、
ファン・スポンサーを獲得している例も海外スポーツクラブで出始めている。

The Red Way
リバプールのサッカーチーム



Climate Pledge Arena (気候誓約)
シアトルのアイスホッケーチーム





二酸化炭素の排出量

世界全体
321億t_{/2022年}



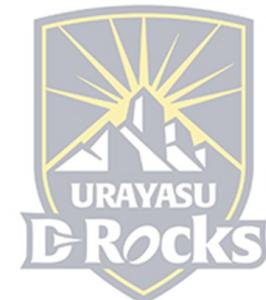
日本全体
11.35億t_{/2022年}



東京都
0.6億t_{/2022年}



浦安D-Rocks
0.00068億t
/2022-23シーズン



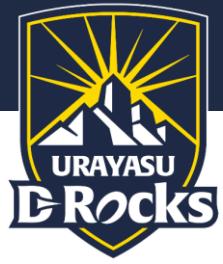


ラグビー界 “初”となる サステイナビリティ宣言

重点テーマ

1. 気候変動対策
2. 循環経済
3. 自然環境保護

“**One for Society**
Society for One”



数値化

数字に基づいた
サステナビリティ活動

国際基準

国際的なスポーツチームのサステ
ナビリティ基準を準拠

共創

パートナーシップによりチー
ムをサステナのハブに

人材育成

ラグビー選手のキャリア育成

スポーツ界から社会に波及
サステナビリティをリードする存在に

チーム活動におけるGHG（温室効果ガスの測定・可視化）20240430

チーム運営



試合運営



算定期間:2022年12月～2023年11月

※1：公式戦ホストゲームが対象

Our sustainability at 2024-2025

Stadium action

サステナビリティを意識した試合運営を目指し、環境負荷低減をテーマに掲げ、施策を実施いたしました。



選手の移動のオフセット

TSトラベルサービスおよびJTBが提供する「CO₂ゼロ旅行[®]」を活用し、NTTジャパンラグビー リーグワン2024-25シーズンにおける選手の試合移動で発生するCO₂排出を100%オフセット。



サステナブルステーション

D-Rocksは、試合会場内に「サステナビリティステーション」を設置し、ごみ分別体験を提供。担当スタッフがファンへの声かけをおこない、資源循環と環境意識の意識向上を図る。



ゴミ拾いウォーク

NTTドコモと共に、試合開催日に「ゴミ拾いウォーク」を実施。ファン、パートナー企業、クラブスタッフが一体となってスタジアムまでの道のりを清掃しながら歩くことで、地域貢献と環境意識の向上を同時に図る取り組みを開く。

試合のオフセット

ホストゲーム会場の電力使用、観客の移動に伴うCO₂をFIT非化石証書取得によって実質カーボンニュートラル化しています。

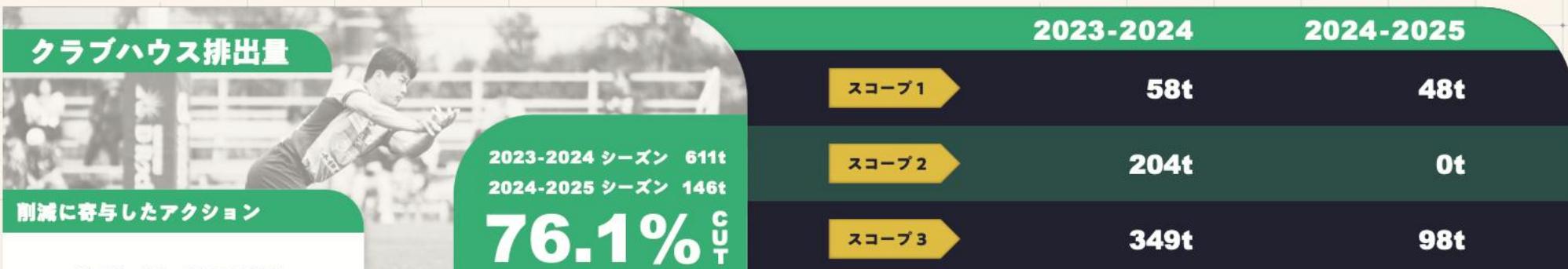
※算出は、GHG プロトコル準拠

日付	試合	会場	オフセット量
12/28	静岡ブルーレヴズ戦	えがお健康スタジアム (熊本県熊本市)	55.0
1/4	横浜キャノンイーグルス戦	Jヴィレッジスタジアム (福島県双葉郡)	7.8
2/8	三重ホンダヒート戦	秩父宮ラグビー場 (東京都港区)	36.1
3/1	トヨタヴェルブリッツ戦	Jヴィレッジスタジアム (福島県双葉郡)	6.8
3/14	クボタスピアーズ船橋・東京ベイ戦	秩父宮ラグビー場 (東京都港区)	37.1
3/29	埼玉ワイルドナイツ戦	キューアンドエースタジアムみやぎ(宮城県)	27.6
4/12	コベルコ神戸スティーラーズ戦	ゼットエーオリブリスタジアム(千葉県)	6.3
4/25	東芝ブレイブルーバス東京戦	秩父宮ラグビー場 (東京都港区)	31.2
4/25	相模原重工ダイナボアーズ戦	秩父宮ラグビー場 (東京都港区)	25.0



Our Carbon Emissions

2023-2024 シーズンより、クラブハウスおよび試合運営における GHG（温室効果ガス）排出量の可視化と削減に取り組み、再生可能エネルギーの導入やカーボン・オフセットの実施により、持続可能な競技環境の実現を目指し活動をおこないました。再生可能エネルギーの導入やカーボン・オフセットの実施を通じ、排出量削減の成果を達成しています。



J-クレジット販売元との
関係構築

熊本県人吉市の自然環境を
訪問、イベント参加、市長訪問
を実施

*「CO₂ゼロ旅行®」はJTBの登録商標です。



オフセットに関する地域連携の実施



Our sustainability at 2024-2025



342名

自転車発電人数



719,351 円

delete Cの募資金額



232.8t

試合会場のGHGオフセット量

※試合運営の電力、観客の移動含む



約50kg

子ども食堂寄付量



9本

サステナ記事発信回数



157.5t

分別を実施したゴミの量



156 個

ボール寄付数



7 個

この指アクション数



558人

ゴミ拾い参加人数

※LTO



1人

認定NPO法人
Being ALIVE Japan



42L

SAF用油回収量



98人

サステナ関連イベント
参加人数



Our sustainability Scope

スポーツが持つ強みは人を集め、巻き込んでいく「求心力」、多くの人にリーチできる「発信力」共感し、共に活動してくれる「コミュニティ」です。「求心力」と「発信力」を活かして、社会課題に取り組む「きっかけ」を作っていく私たちは、私たちを通じて多くの人が社会課題に触れ、理解し、行動する「きっかけ」となることで、社会課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

「きっかけ」となるアクションをファンと共にを行い、アクションの輪を広げることで、社会の行動変容を促します。



わたしたちのサステナビリティの4つのピース

サステナビリティを行う際に私たちは、4つのピースを大事にしています。

これらはスポーツチームをハブとして行動変容のきっかけを生み出すための基本理念です。



カジュアル

誰でもカジュアルに始められるアクション



コネクト

多様な連携により
サステナクションの輪を広げる



数値化

数字に基づいた
サステナビリティ活動



国際基準

際的なスポーツ団体の
サステナビリティ基準を
準拠